



佐藤駿さん
(前田・八和木)

久保内由衣さん
(大久保・外内)

佐藤聡太さん
(前田・八和木)

大内彩加さん
(草野/までい大使)

東京大学本郷キャンパス正門横に立てたテントでオープンに向け準備をしていた皆さん

仲間とともに
その38

までい
ラボ

活動データ

- 東京大学大学院で学ぶ佐藤聡太さんの呼びかけにより村の同世代4人で活動を開始。
- 飯館牛の再興を願い、「までい牛」を通じて村をPRするプロジェクトを計画。村に関心を寄せる大学院生らも加わり、2度(計3日間)の販売を実施。

東京大学の五月祭で「までい牛」を販売した「までいラボ」。小林将男さん(閔沢)が飯館牛の血統を守って千葉県山武市で育て続ける牛の肉を、多くの人に味わってもらおうプロジェクトを進めてきました。「間接的に広める活動ですが、そこから生産者と消費者の直接的なつながりが生まれたら」と発起人の佐藤聡太さん。メンバーの多くが就職活動期に入るため、この「までいラボ」の活動は一旦休止しますが、佐藤さんは「村の復興の過程に、若い世代で何ができるか、これからも考えていきたい」と力強く話していました。

「までい牛」の美味しさで、飯館村の魅力を伝えよう

1 東京大学五月祭で交流の輪が広がる

5/14・15



1. 香りに誘われてのびていく行列 2. 福島県にゆかりある人や村に関心を寄せる人との出会いもありました 3. 「までい牛」や村に対する質問に丁寧に答える生産者の小林将男さん(男性左)と佐藤駿さん(同右)

「脂身が甘い」「バラ肉がこんなに美味しいとは」。東京大学五月祭で「までいラボ」(上記参照)が販売した「までい牛」。食べ比べができるよう、焼きたてのモモ肉・バラ肉と、オーストラリア産牛肉を破格値の500円でセット販売。食べれば分かる味の違いが購入者を驚かせました。また訪れた人に資料を手渡し、対話をしながら、飯館牛や村の魅力も伝えました。



表紙 草野・飯桶・白石小学校の運動会
保護者らによる綱引き「村の衆、ひげやひげ」の一場面です。運動会の記事はP14で。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。